

## 平成27年度(2015年度) 吹田市休日急病診療所運営協議会 議事録

- 1 開催日時 平成27年10月29日(木) 午後2時～午後3時
- 2 開催場所 保健センター 3階研修室
- 3 出席委員 13名 川西克幸会長、御前治委員、中島哲委員、千原耕治委員、立木靖子委員、杉野己代子委員、平山博委員、木内武良委員、甲斐達朗委員、村田幸平委員、永瀬寿彦副会長、藤原雅宏委員<sup>注1</sup>、安井修委員  
(注1 藤原雅宏委員(吹田市消防本部救急課課長代理)は、前部晴奈委員の代理として出席)
- 4 欠席委員 3名 新居延高宏委員、谷口学委員、寒原芳浩委員
- 5 市出席者 8名 休日急病診療所：河野誠三管理医師、田辺正志事務長、宮林誠  
保健センター：大川雅博参事、安宅千枝主幹、山谷竜也主査、村澤亮平主査  
地方独立行政法人市立吹田市民病院医療事務室：西嶋義文主査

### 6 会議次第

- (1) 川西会長挨拶
- (2) 安井理事挨拶
- (3) 平成26年度(2014年度)休日急病診療所の業務状況について(報告)
- (4) 平成26年度(2014年度)休日急病診療所の年末年始医療体制について(報告)
- (5) 平成27年度(2015年度)休日急病診療所の年末年始医療体制(案)について(協議)
- (6) その他
  - ア 豊能広域子ども急病センターの受診者数について(報告)
  - イ 平成27年度(2015年度)上半期休日急病診療所受診者数について(報告)

### 7 案件協議

- (1) 平成26年度(2014年度)休日急病診療所の業務状況について(報告)

[会長] 皆様、会議の運営に御協力の程、よろしく申し上げます。まず案件1「平成26年度(2014年度)休日急病診療所の業務状況について(報告)」について、事務局の方から説明をお願いします。

[事務局] [資料に基づき説明]

[会長] 事務局からの説明が終わりましたが、何か御質問等ございましたらお願いします。

[副会長] 受診状況で呼吸器系の疾患が多いですが、感冒などがここに入っているのですか。

[事務局] 感冒やインフルエンザが主です。

[会長] 他に質問等がなければ、案件1については、事務局の説明どおり、了承すること

といたします。

(2) 平成26年度(2014年度)休日急病診療所の年末年始医療体制について(報告)

[会長] 続きまして案件2「平成26年度(2014年度)休日急病診療所の年末年始医療体制について(報告)」を議題にさせていただきます。事務局から説明をお願いします。

[事務局] [資料に基づき説明]

[会長] 説明が終わりましたので、御質問、御意見がございましたら、お受けしますのでどうぞよろしくをお願いします。

[副会長] 昨年度と比べると、内科と小児科が特に多いのは、インフルエンザの影響ですか。

[事務局] おっしゃるとおりです。

[副会長] インフルエンザが特に多くなるというのは予測がつくものなのでしょうか。

[事務局] インフルエンザの流行を予測するのは難しいところです。ただ、前回は年末年始の期間が8日間で、普段の6日間より2日間多く、患者数はかなり増えるだろう、と予測していました。しかし、前々回の2倍ほど、増えるところまでは、予測できませんでした。

[委員] 年末の30、31日あたりは、休日急病診療所はキャパを越えているようです。私どもの病院も1日で300人以上の救急患者が来院されたので、現場はかなり混乱しました。3~4時間待ち、ということもありました。30日は済生会千里病院は普通に診療されていた、ということで、患者さんは昼間、そちらに行っていただけでも良かったのかもしれませんが、数字には出ていませんが、実際その時間帯に来られたのかどうか。とか、貴病院はあまり影響を受けていないようですが、貴病院の1次救急の受け入れ状況はどういったものだったか、お教えてください。

[委員] 26年度が25年度に比べて特に受け入れが変わった訳ではなくて、例年と同じ体制で対応させていただきました。ただ、25年度は、年末年始、私がずっと病院にいて、全ての患者を受け入れる、ということでした。去年はちょっと手控えた加減もあつてか、ちょっと数が減って、貴病院にも御迷惑をおかけした、と思っています。うちの病院は来た患者の4割5分くらいは入院になっているので、患者数は少ないが入院患者数は多いだろう、と思っています。数字に現れないところですが。

[委員] 色々病院の御方針とかある、と思いますが、基本的には、この数は1次と、2次を合わせた数なんで先生のところは、1次が少ないのでは。

[委員] 今年については、特に少なかった、と思います。特に、断ったことはないのですが、25年度の年末年始は私がいて、連絡の来たものは全て来てもらうようにしました。

[委員] 先生の個人的なお力に頼るのは、もちろんよろしくないことですが、この間見て

いますと、もう少し貴病院にも、一次的なものをお手伝いいただかないと、休日急病診療所とうちの病院は疲弊してしまう、と思います。

[委員] わかりました。病院の方へ情報提供しておきます。

[委員] それから、貴病院の、ここに出ている数は千里救命センターの数は入っていませんね。

[委員] はい。ウォークインのみです。この時期は、同じ敷地内に休日急病診療所があった時ですから、全く今までと変わりございません。問題は2月からの3月以降ですが、患者数が1.5倍です。ウォークインのドクターを2人体制で組めるか、組めないか、ということを検討しています。特にこの正月は、次のデータを御覧になればわかりますが、この地域の受診患者はかなり減っています。と、ということは全部流れて来ています。だから、病院としてどうするか、検討しているところです。

[会長] ありがとうございます。実は26年度に関しては年末年始、その前の23日の天皇誕生日、その前の21日の日曜日から、もうほとんど破綻状態にして、私が応援に行き何とかこなし、というのが現状でございます。ここ5年くらい、新型インフルエンザ騒動以来、これだけ年末前倒し、というのは全く初めてでした。実は1月3日くらいから、徐々に減って来て、その後あまり流行らなかった。しかも、子供が少なく、大人が大半であった、という特異的な流行形態でした。ということで、予測は難しかった。インフルエンザの流行だけはいかんともし難いので、何とかがんばっていただきたい、と思います。千里にあったときも23日なんか、小児科の医者も昼飯を食べる時間がない、というくらいですので。

[委員] その時は先生方が応援に出て来られるのですか。

[会長] うまく私が捕まったので。

[委員] それも、ちょっと大変ですね。

[会長] 正月を心配していましたが、何とか出務ドクターの努力で乗り切ることができたのが、現状です。薬局の方も大変だった、と思います。

[委員] インフルエンザが流行ると、イナビルの吸入にひとり付き切りになってしまいます。あと、ドクターがひとり急に、会長のように出てくださいると、薬剤師もひとり出る、ということで、常に流行の期間は待機しています。一応、定員何人って決まっています、プラスひとは待機しています。はじめから増やすと、暇だった場合問題があるので、待機という形で取らせていただいています。

[会長] ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。では、案件2に関しましては事務局の説明どおり了承する、ということでよろしく願います。

(3) 平成27年度(2015年度)休日急病診療所の年末年始医療体制(案)について(協議)

[会長] 続きまして案件3「平成27年度(2015年度)休日急病診療所の年末年始医療体制

(案) について(協議)を議題にさせていただきます。事務局の方から説明の方をよろしくお願ひします。

[事務局] [資料に基づき説明]

[会長] 案件3について、何か御意見、御質問等ございますでしょうか。先ほどの議論を踏まえて何か御意見ございませんでしょうか。

[管理医師] 医師の体制もそうですが、駐車場は50台くらいしか止められません。ここに出務医師等が29名のときに、仮に全員車で来られると、駐車場が詰まってしまう。原則的に、職種に関わらず、これは市役所にも御協力をいただかないといけないのですが、市役所の駐車場を、少し距離がありますが、使ってもらうこと。それと保健所の駐車場が使えるか、一度問い合わせさせていただきます。あと、今回インフルエンザの季節は、2月に引越して以降初めてなんですけど、発熱患者が多数来たときに患者をどう分けるか、というのが問題です。その辺の案が、いいお知恵がありましたら、お借りたいのですが、何かありますか。例えば、別室を用意できますか。

[事務局] どう分けるか、という具体はこれからですが、集団検診室がございますので、そちらに椅子等を用意して分ける予定です。

[会長] 今、集団検診室と言われましたが、長さがこの研修室くらいで、横幅が少し狭い部屋で、パーティションで3つの部屋に分けることができる、というところがあります。一応、そこまで行けるのですが、何せ4階ですからエレベーターの中で一緒になるところをどうするか、という問題がございます。新型インフルエンザのときは、発熱患者さんは普通の待合室で待たせて、発熱患者以外の方を別のところに、封じ込んだ、ということもございます。先ほど言われた、薬剤師の方の場合はイナビル吸入指導で少し場所を取るんで、この問題は、薬剤師の方で御検討いただく必要がある、と思います。

[委員] そうですね。あまり遠いと、行くのが大変です。また、イナビル吸入指導のときは、皆さん吹き出したりするから、ある程度の広さと、隔離をしてもらわないと。私たちは仕方ないとしても、他の患者さんが困ります。

[会長] 換気が本当にそれでいいのか、という問題もありますので、御検討いただきたい、と思います。他に何か、御意見、御質問ございますか。

[委員] 今年の年末は特殊だったと思うのですが、先ほど、薬剤師会の方もおっしゃいましたが、超緊急の場合、応援を頼まないといけない、ということですね。医師会の場合は、誰か役員が捕まったら、今年は大変な川西先生がいらしたから良かったのですが。予めそういう人員を確保しておく、というお考えはないのですか。予備というか、待機の先生を。薬剤師会もそうですし、歯科医師会もそうです。そういうお考えはないのですか。私も、呼び出されて出たことがありました。

[管理医師] 医師会の方は31日に関しまして、外科は、私が午前中は待機して患者数を見て、たいしたことなければ帰ろうかな、と思っています。他の曜日に関しては小児科の先生に、12月に入ってインフルエンザの発生状況を勘案して、何人かにお声をかけ

る予定です。

[会長] 医師会としても、努力いたしますので、歯科医師会、薬剤師会の方も、緊急の時にはよろしくをお願いします。

[委員] 今まで、インフルエンザの流行で急に患者さんが増えたときには、休日診療所の方から、待機をお願いします、という連絡をいただいていた。そういう連絡をいただけるものか、もしくはお正月について、流行るか流行らないか、まだわからないとは思いますが、事前にひとり待機の要請はそちらからはありますか。それとも、自主的にしとかないといけないのですか。

[事務局] 基本的には待機をお願いする形で、調整させていただけたら、と思います。これも、インフルエンザの流行り具合によりますので、難しいところです。そういうお願いをする余地はあるのですか。

[会長] ここ3年くらいはやってなかったのですが、それまでは医師会としては、個別にドクターを、いざというときにはお願いします、ということでやっていました。それを休日診療所にお知らせしていた、ということはありません。ここ3年くらいやってなくて、ほとんど私が行っていたという状況です。

[委員] 薬剤師会の方は、何月何日は誰々が待機していますので、必要になれば休日診療所の方から直接、連絡入れてください、っていう風に、待機していました。変な話、待機しようと思ったらその人は動けない訳です。それで、出務したら報酬が入るのに、しなければ何もないので、薬剤師会では会費の方から、待機代というのを払っていますが、市にそこまで、というのはね。

[委員] 歯科医師会は緊急出務一覧、というのを作っています。例えば、日程等でドクターが急に出られない、ときは出務一覧に従って、一番上、2番目、3番目という形で一覧を作っています。休日診の方もその対応で、させていただきます。もし、何かあった場合は、御連絡いただいて、緊急出務一覧を利用させていただいて出務させていただく、ということを行います。

[会長] よろしいでしょうか。それぞれ、三師会とも何とか頑張っていますので、よろしくをお願いします。それ以外何か、御質問、御意見、ございますでしょうか。

[会長] よろしいでしょうか。他に御意見ないようでしたら、案件3につきましては事務局の説明通り了承いたします。

#### (4) その他

ア 豊能広域こども急病センターの受診者数について（報告）

イ 平成27年度(2015年度)上半期休日急病診療所受診者数について（報告）

[会長] 続きまして案件4に移らせていただきます。まず「豊能広域こども急病センターの受診者数について（報告）」及び「平成27年度(2015年度)上半期休日急病診療所受診者数について（報告）」を一括議題といたしますので、事務局よろしくをお願いします。

[事務局] [資料に基づき説明]

[会長] では、この件につきまして、御質問、御意見、お受けしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[委員] 現在、ここで休日急病診療所をやっていますが、あくまで一過性のものです。この資料で見ますと、南の方は確かに増えていますが、もともとの数が、地区の患者さんの数が、圧倒的に多いのが真ん中から北部にかけてですよね。そこが、急に減っている、ということはどこかに行ってる訳ですよね。ということは、今回の作るところは、これを考えて作っていただかないと、病院間で患者さんの移動が起こるんですね。ハッキリいって、うちの病院の夜間の数って、1.5倍に増えています。恐らくこのお正月は大変やな、ということで、当然、対策は考えていますが、ずっと続くってことはかなり負担がかかるので、早い目に患者さんの動きを考えて次の恒久的な休日診療所をどこにするか、ということをお急ぎにお願いできますでしょうか。これは支援のお願いです。

[委員] 現在、保健センター4階でやっていますのは、あくまでも暫定的な施設として、移転しています。医療審等でも、恒常的な施設ということで、設置をする際に、地域的には北部地域ということで、吹田市でいいますと、ニュータウン地域で検討する、ということで、今現在、先ほど挨拶でも申し上げましたが、鋭意努力中です。

[会長] ありがとうございます。

[委員] 最後の16ページですが、今まで片山・岸部・JR以南の人は休日診療所に、多分、地域的に行ってない、と思います。多分、吹田市民病院とか、済生会吹田病院に行っている、と思います。多分、ここにある、ということはまだ住民の方が御存じないので、ここにずっとあるとすれば、ちょっとずつ片山・岸部も増えると思います。そういうのも勘案して様子を見ていかないとあかん、と思っています。それと、千里ニュータウンの398人も減っているのは、どこへ行っているのでしょうか。済生会千里病院へ行っている、と思うのですが、豊中も減っている、ということで恒久的に、しばらくここに休日診療所がある、ということだと、患者さんの動向が変わってくる、と思うのでできたらあまり、時間が経たないうちに、早めに移っていただく、という公的な施設を作っていただければ、ありがたいな、というのが私の意見です。

[会長] よろしくお願ひいたします。それ以外、何かございますか。せつかく、こちらに移った、ということで、2月に移ってからの状況ですね。事務局から見て、もう少し改善点とか、気がついたところとか、何かあればお教えてください。

[事務局] 移転した当初は、移転していること御存知ない方が、ちらほらいらっしやって、一旦、南千里へ行ったら、引っ越した、という看板が出ていたので、こちらに来ました、という方がいらっしやいました。調べてみますと、インターネットの地図に休日診療所の場所がポイントされているのですが、以前の津雲台の住所が表示されていることが、5月くらいにわかりまして、それぞれ連絡して修正していただきました。その後、地図で間違える方はだいぶ減りました。

[会長] 他に案件がないようでしたら、これで本日の吹田市休日急病診療所運営協議会を閉会いたします。委員の皆様におかれましてはこれまで、活発な御答弁をいただき、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

以上